

研究成果の発信：機関リポジトリ

第5回中国・四国・九州・沖縄地区
大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー

広島工業大学附属図書館 森保信吾

お約束

- Cliffod Lynchによる機関リポジトリの定義

- a university-based institutional repository is a set of services that a university offers to the members of its community for the management and dissemination of digital materials created by the institution and its community members.

ARL Bimonthly Report 226, February 2003 Institutional Repositories: Essential Infrastructure for Scholarship in the Digital Age

「先生のその論文、ネット公開する大学のサービスありますよ〜。」

- Raym Crowによる機関リポジトリの定義

- digital collections capturing and preserving the intellectual output of a single or multi-university

The Case for Institutional Repositories: A SPARC Position Paper. 2002

「学内の先生が書いた論文を集めてデジタルコレクションを作ろう！」

機関リポジトリの意義・目的と オープンアクセス

ネット上の学術コンテンツ

クローズドアクセス

- ★一部のしか閲覧できない
- ◆ 学術情報流通の偏り
- ◆ 研究活動への支障
(シリアルズクライシス)



- ◆ 有料電子ジャーナル
- ◆ 有料電子ブック

オープンアクセス(OA)

- ★誰でも閲覧できる
- ◆ 学術情報流通の拡大(量的・分野的)
- ◆ 研究活動の広がり



OA出版(OA誌etc.)

(Gold Road)

- ◆ 著者支払い型
- ◆ エンバーゴ型
- ◆ 完全無料型
- ◆ etc.

セルフアーカイビング

(Green Road)

- ◆ **機関リポジトリ**
- ◆ プレプリントサーバ
- ◆ 著者ウェブサイト
- ◆ etc.

論文などの学術研究成果は、本来、人類にとって共通の知的資産であり、その内容を必要とする全ての人々がアクセスできるようにすることが求められる。このような観点から、オンラインにより無料で制約なく論文等にアクセスできることを理念とするオープンアクセスを推進する必要がある。

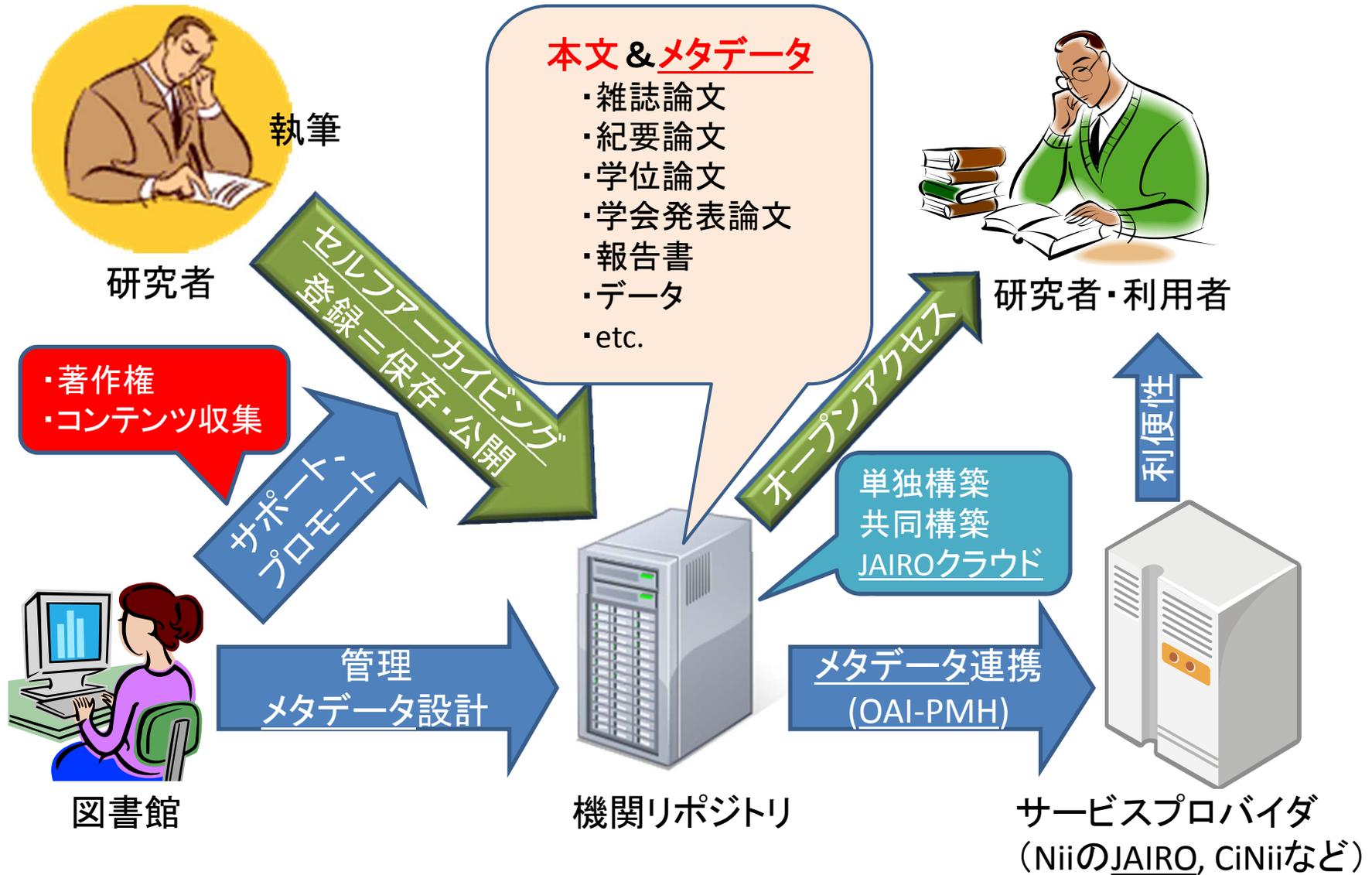
大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ)平成21年7月
文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

機関リポジトリの意義(その他)

- 社会貢献
 - 大学等の生み出す多様な知的生産物は社会に共有され、活用されることが、今後の発展のために必要
 - 知的情報の蓄積・発信は、社会への貢献が求められる大学等の責務であり、そのための重要な手段として機関リポジトリを位置づけ、整備・充実を図ることが望まれる
- 研究、学習・教育活動のためのインフラ
 - 大学の生産する知的情報・資料の集積、長期保存の場(アーカイブ)
 - 学術情報の発信及び流通の基盤(論文、データ、報告書等の公表及び提供)
 - 学習・教育のための基盤(教材の電子化、提供、保存)
- 機関側の意義
 - 大学全体の知的資産を把握・可視化
 - 大学の存在感、優秀度等をアピールする手段
- ユーザーのメリット
 - 学術情報に関する新しいコミュニケーションツール

学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について【概要】平成24年7月
文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

機関リポジトリのしくみ



コンテンツ収集と著作権

	雑誌論文、会議発表論文、etc.	紀要、学内刊行物、etc.
権利主体	学外(出版社、学会など)	学内(大学、編集委員会、教員など)
公開根拠 (著作権)	出版社、学会の許可・条件次第 ・ <u>ポストプリント</u> (審査後原稿)可 ・ <u>プレプリント</u> (未審査原稿)可 ・一切不可	権利者の意思 (著者に著作権がある場合は共著者 全員の意思)
捕捉	難(カレントを中心にDB検索など)	易
労力	大 ・個別作業、著者稿の入手	小 ・一括作業
継続性	教員による理解と協力 …研究者とのコミュニケーション …フィードバック(ダウンロード数)	最初が肝心 …内規や投稿規程の整備

面白さ

- 先生(の研究)ことを知ろうとしないといけないし、交渉もしないといけない。(資料相手⇔人間相手)
- 熟練よりも信頼関係と情熱

機関リポジトリとコミュニティ

- デジタルリポジトリ連合 (DRF)
 - 平成18年 機関リポジトリコミュニティの活性化を目標に組織
 - CSI委託事業(H18～H24)
 - 152機関が参加(平成25年8月現在)
 - 情報共有、意見交換、ワークショップ等の開催
 - 情報共有サイト<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/>の運営
 - 情報誌「月刊DRF」の発行
 - CSI委託事業の終了後も一部の事業は継続し、ワーキンググループ単位の活動を中心に、フレッシュパーソンを含む若手の創意工夫で担っている。
- 地域コミュニティと共同リポジトリ
 - 機関リポジトリ黎明期、中小規模大学単独での構築は困難
 - 地域の大学図書館コミュニティで協力して構築しましょうという動き

用語集

- 著作権
 - SHERPA/RoMEO・・・セルフアーカイビングの可・否・条件等が分かるデータベース、イギリスの機関リポジトリの団体であるSHERPAが運営している。
 - SCPJ・・・SHERPA/RoMEOの日本版(CSI委託事業としてH18年発足)
 - プレプリント・・・査読がされる前の原稿
 - ポストプリント・・・査読後の原稿で出版社版でないもの
 - 出版社版・・・出版のための編集(体裁のアレンジメント等)が加えられた版
- 機関リポジトリシステム
 - メタデータ・・・コンテンツの書誌目録的信息
 - OAI-PMH・・・メタデータの自動収集のため定められた決まり(プロトコル)で、機関リポジトリシステムはこの決まりに即した機能を持っている。
 - メタデータハーベスティング・・・OAI-PMHの決まりに従って、機関リポジトリからメタデータを根こそぎ読み取っていくこと
 - クロスウォーク・・・メタデータ形式変換のための対応表、メタデータ形式は各機関で自由に設計できるため、ハーベスティング時には変換が必要である。
 - JAIROクラウド・・・国立情報学研究所が提供する機関リポジトリシステムのクラウド環境、無料で機関リポジトリシステムを運用出来る。

用語集

- その他

- セルフアーカイビング・・・学術雑誌論文(の著者版)などを著者の所属組織の機関リポジトリ等で公開し、オープンアクセスに供する事
- シリアルズクライシス・・・1990年代以後、雑誌価格の高騰により、購読タイトルが減ることによって研究活動に支障をきたし始めた由々しき事態
- Junii2・・・NIIが定めたメタデータの形式で、国内の機関リポジトリからメタデータを収集する際の形式、平成25年4月の学位規則の一部改正に伴い、学位論文の納本に対応できるバージョン3.0が策定された。
- OAジャーナル・・・誰でも利用できるオンラインジャーナル
- 著者支払い型・・・費用を著者が負担するOAジャーナルの刊行方式
- エンバーゴ・・・公開猶予期限のこと、発行後の一定期間の経過をセルフアーカイビングの条件とする出版社もある。また、エンバーゴを設けることでOAジャーナルを実現しているタイトルもある。
- CSI委託事業・・・正式名称は最先端学術情報基盤整備事業で、NIIが機関リポジトリの普及等のためにお金を出してくれる事業の事、平成17年度から平成24年度まで実施され、この間に機関リポジトリが広く国内に普及した。
- JAIRO・・・Niiが運営する国内の機関リポジトリ横断サイト。(JAIROクラウドとは別もの。)

学位規則の一部改正(H25.4施行)

- 学位論文(博士)をインターネット公表することが義務化された
 - 授与機関が運営する機関リポジトリ相当のサーバ上での公表が推奨される
 - 公開すべき対象はH25.4以後に授与される学位論文の全文、内容の要旨、審査結果の要旨(〇J掲載論文の場合や、やむを得ずネット公開できない場合は別途定めあり)
 - 機関リポジトリシステムは、メタデータ形式junii2のバージョン3.0に対応する必要がある

最後に

- 主体性
- 用語集 追補
 - フミヨ オザキ
 - 機関リポジトリの普及を仕掛けた方々
- お仕事は？